

令和7年度岩手県立農業大学校外部評価懇談会報告書

- 1 日時 令和7年7月15日(火) 13:15~14:45
- 2 場所 岩手県立農業大学校 農業研修館研修ホール
- 3 出席者

構成員 (座長)	岩手県立大学総合政策学部教授	吉野 英岐氏
構成員	岩手県高等学校教育研究会農業部会長	佐藤 紀文氏
構成員	岩手県農業協同組合中央会営農農政部部長	山崎 勉 氏
構成員	岩手県認定農業者組織連絡協議会会長	川村 厚 氏
構成員	岩手県農業農村指導士協会会長	青沼 純一氏
構成員	岩手県農村青年クラブ連絡協議会監事	高橋 真樹氏
構成員	岩手県立農業大学校父母の会会長	佐藤 学 氏

4 議事

(1) 令和6年度自己評価結果について

令和7年2月に実施した学生、父母等、職員への学校運営に関するアンケート調査結果及び次の各項目の取組内容の自己評価結果に係る意見・要望をいただき、次のとおり項目の全てにおいて、自己評価結果と同じ評価を得た。

1 新規就農者の確保育成	<u>A</u> (A)	() は自己評価を示す。
2 多様な担い手の育成	<u>A</u> (A)	
3 農大の機能強化推進	<u>B</u> (B)	

(2) 主な意見等

ア 新規就農者の確保育成

- ・ 令和6年度の農大の取組は、学生募集が厳しい現状において、今年の入学生数を増加させたことから、これまでより一層高い評価をしたい。入学生増加の要因を分析し、さらに伸ばされたい。
- ・ 入学生数増加の要因の一つは、農大の進路実績と考える。非農家出身者でも、農大経由で農協や農業関連会社に就職が可能。また、4年制大学への編入学が可能であり、幅広い進路に対応している。このような実績を、SNS等を活用してアピールされたい。
- ・ 女子学生が増加しているが、最近はスマート農業が普及してきており、女性でも継続的に農作業が可能になってきている。長期的な目を見た農業担い手の育成を考えていく必要がある。

イ 多様な担い手の育成

- ・ 研修に出席不足で修了証を受けられない研修生がいるため、別の形での受講証書交付を検討されたい。
- ・ 熱中症対策など、経営者のための講習会があるとよい。

ウ 農大の機能強化促進について

- ・ 多様な講義を支えるため、指導者の研修の機会を増やすなど対策されたい。
- ・ 東北全体に、農大の学校案内やInstagram QRコードを送るなどして広く周知されたい。